



椎の木

令和6年8月29日発行 8・9月号

朝霞市立朝霞第八小学校
〒351-0012 朝霞市栄町5-1-41
TEL:048-465-8381 FAX:048-467-4739
児童数：1,139名

【目指す学校像】教育は子供の未来づくり ～児童に未来を生き抜く力の基礎を育てる学校～

校長 田中 誠

39日間の夏休みが終わり、子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。2学期のスタートです。

夏休み期間中の7月26日から8月11日までの17日間、フランスのパリで夏季オリンピック競技大会が開催されました。3年前の前回オリンピックは東京開催だったので生中継を見られましたが、今回は時差のあるパリでの開催だったため、眠い目をこすりながら観た方もいたのではないのでしょうか。日本は金20個、銀12個、銅13個の計45個のメダルを獲得。金メダルの数、メダル総数ともに海外で開催された五輪では過去最多の結果を残しました。前回の東京大会では13歳の金メダリストが誕生しましたが、今回もスケートボード女子ストーリーで14歳の吉沢恋選手が金メダリストに。本校に通う子供たちと幾つも違わない若い世代の活躍に驚かされました。トップアスリートと呼ばれる選手たちの戦いをワクワクしながら観戦する一方、報道で気になったのがその選手たちに対するSNSでの誹謗中傷の問題。日本だけのことではなかったようですが、日本オリンピック委員会からも声明が出される異例の事態となりました。選手たちへの期待が大きい分、結果が伴わない（メダルが取れない）ことに対して受け入れることができず、行き過ぎた批判に走ってしまったのでしょうか。



しかし、「アスリートは4年に一度開かれるオリンピックに向けて、自分自身のため、そして支えてくださる多くの方のため、人知れず努力を重ねてきました。どのアスリートも、一瞬一瞬を無駄にせず、緊張の中で、自身が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、調整して大会に臨んでいます。中には、試合前にコンディションを見極めて厳しい選択をせざるを得ないこともあります。どれだけ準備を重ねても、試合では予期せぬこともたくさんあります。そのすべてを受け入れて、自分にできる最高のパフォーマンスを発揮すべく、アスリートはその場に立っています。応援いただく皆さまに、是非アスリートがこれまで歩んできた道のりにも思いを寄せ、その瞬間を見守り、応援いただけますと幸いです。」(TEAM JAPANからのメッセージより) というように、選手たちは自分の精一杯を尽くしているということは間違いないことだと思います。そうした選手たちに匿名だから何でも自由に言うてよいのではなく、投稿をするからには、その言葉に責任をもたなければなりません。子供たちには情報モラルをしっかりと身に付けられるよう、指導を進めていきたいと切に感じました。

夏休み中の話題のもう1つは地震。8月8日に、宮崎県で震度6弱の揺れを観測した地震で、気象庁は南海トラフ地震の想定震源域では大規模地震が発生する可能性がふだんと比べて高まっているとして臨時情報を出し、巨大地震への注意を呼びかけました。9日には神奈川県西部を震源に震度5弱を観測する地震が発生。19日には茨城で立て続けに2度、マグニチュード5くらいの地震が発生しました。「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」は、その後1週間、巨大地震の発生はなかったことから発表が解除されましたが、改めていつ起こるかかわからない地震に対する備えをどうすればいいか考える機会となりました。9月1日は防災の日ですね。

